

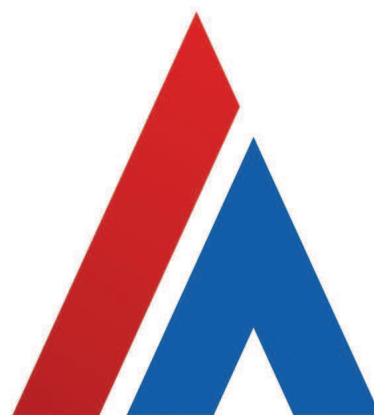


## 上手な運賃交渉を行うためのスキルや人材育成

2023年10月10日

アセンド株式会社

[Growth-support@ascendlogi.co.jp](mailto:Growth-support@ascendlogi.co.jp)  
03-6555-3055



## 本セミナーでお伝えしたい事

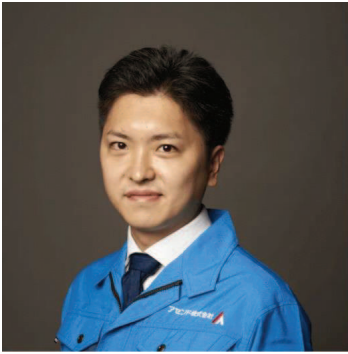


- ① **2024年問題は、荷主の物流管理責任（意識）を高め、物流改革を推進する一大チャンス！**
- ② **運賃交渉の成功に向けてはデータ（エビデンス）の用意が必須！ポイントは共通理解の醸成！**
- ③ **原価管理のポイントは業務と原価データをつなげる  
こと。システムを活用することで自然と原価を取得し、  
運賃交渉に活用！**

#	テーマ	時間
1	はじめに	5分
2	2024年問題と政策パッケージ	10分
3	運賃交渉の実践事例ご紹介	15分
4	原価管理のポイント	10分
おまけ	人事制度改革の基礎知識	-

講師・会社紹介





代表取締役社長  
日下瑞貴

## 略歴

- 1990年北海道江別市生まれ。早稲田大学政治学研究所修了（政治哲学専攻）、PwCコンサルティング合同会社、株式会社野村総合研究所を経て、2020年3月にアセンド株式会社を創業
- アセンドでは運送業界に特化したクラウド型ERPシステム「ロジックス」の開発・提供及び、物流DXに関するコンサルティングサービスを提供
- 専門は物流業界のIT・データ戦略、KPI設計、人事制度改革等。論文・講演・委員等の実績も多数

### 【委員/執筆/講演活動等】

- 委員・講師：「ロジスティクス経営指標調査」「ロジスティクスイノベーション推進委員会」「DX人材育成セミナー」（JILS）、「物流DX講座」（全日本トラック協会）
- 論文・執筆：「フィジカルインターネットによる物流課題の解決」（ヤマト総合研究所、学術論文部門受賞）、「物流DXの進め方」（物流ニッポン）
- 教育：東京大学工学部システム創成科特別講師、中央大学商学部特別講師
- 講演：「物流DXの課題と今後」（東京都トラック協会）、「DXによる業務・経営課題の解決」（CREフォーラム）、その他全国各地での講演実績

### 【国・業界団体支援実績等】

- カーボンニュートラルの実現に向けた輸送形態の調査（国土交通省）
- 貨物自動車運送事業における取引状況調査（国土交通省）
- 物流DX動画作成業務（全日本トラック協会）
- 貨物自動車運送事業における生産性向上及び長時間労働の改善に向けた調査事業（加工食品/飲料・酒）（国土交通省）
- 2030年のロジスティクス構想策定（物流業界団体）
- 日米ロジスティクス比較調査（物流業界団体）
- 次世代の消費・流通のあり方に関する調査（経済産業省）
- 在庫情報のリアルタイム共有に向けた基盤整備事業（経済産業省）
- ロシア物流拠点計画調査（農林水産省）
- ウズベキスタン農業ODA案件化可能性調査（農林水産省）

4

# 弊社のミッション

## 物流業界の価値最大化

運送業界は長年の不合理な商慣行や事業の性格から、テクノロジーの恩恵を十分に受けることができずに来ました。これに加えて、2024年問題やドライバー不足、脱炭素社会への適応など、業界を取り巻く環境は大きく変化しています。我々はシステムとコンサルティングの両面から、環境変化に対応する皆さまを徹頭徹尾支援して参ります。DX（デジタル・トランスフォーメーション）という大きな社会潮流の中で、業界の皆さまとともに、新しい物流業界の姿を形作って参りたいと思います。

### システム事業

- 運送業特化のクラウド型ERPシステム「ロジックス」の開発・提供
- 配車、帳票作成、点検・整備、請求、労務管理、データ分析に至るまで運送業の業務を網羅的に効率化

### コンサルティング事業

- 物流DX関連のコンサルティング
- 主要顧客：国土交通省、内閣府、全日本トラック協会、大手荷主企業、大手・中堅運送企業

5

弊社が提供する「ロジックス」は受注から配車、帳票作成、点検・整備、請求、労務管理、データ分析に至るまで運送業の業務を網羅的に効率化

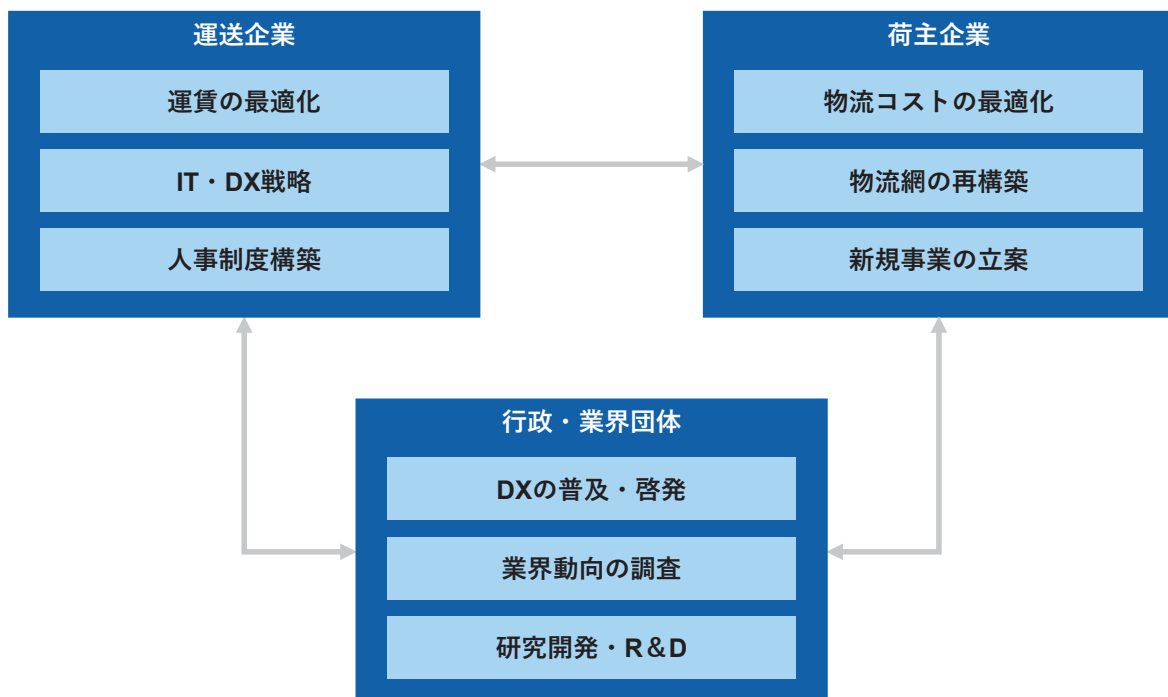
運送業特化のオールインワンSaaS

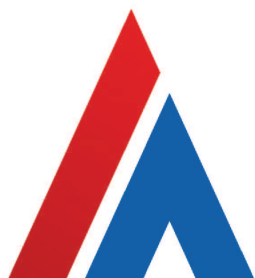
# ロジックス



## コンサルティングサービス

行政・業界団体、荷主企業、運送会社といった様々なステークホルダーのお客様に上流から下流まで、包括的なコンサルティングサービスを提供しております。





会社名	アセンド株式会社
代表	日下瑞貴
住所	東京都新宿区市谷砂土原町2-7-19田中保全ビル3階
設立	2020年3月
資本金 (準備金を含む)	5億1900万円
従業員数	35名 (副業社員を含む)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>運行管理支援システム「ロジックス」の開発・導入</li> <li>物流コンサルティング事業</li> </ul>

## メディア掲載実績 (一部抜粋)



8

# 物流DX講座

全日本トラック協会青年部と一緒に「物流DX講座」を作成  
DXの基本的な考え方から推進方法、人材育成までDXの色々を解説



- 全日本トラック協会青年部の研修コンテンツとして作成、全三回各回30分程度
- DX (デジタル・トランスフォーメーション) について、定義から事例まで包括的に解説
- DXは「デジタル技術を用いた経営革新」であり、運送業界におけるDXの進め方を解説

#	タイトル	詳細
第一回	DXを理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>物流DXの必要性</li> <li>DXとは何か</li> <li>業界別DX事例</li> </ul>
第二回	物流DXを理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>物流DXの全体像</li> <li>物流DXのソリューション</li> <li>物流DXの推進体制</li> </ul>
第三回	物流DXの進め方を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>物流DXの事例紹介</li> <li>事例からみるDX推進のポイント</li> </ul>

9

#	テーマ	時間
1	はじめに	5分
2	2024年問題と政策パッケージ	10分
3	運賃交渉の実践事例ご紹介	15分
4	原価管理のポイント	10分
おまけ	人事制度改革の基礎知識	-

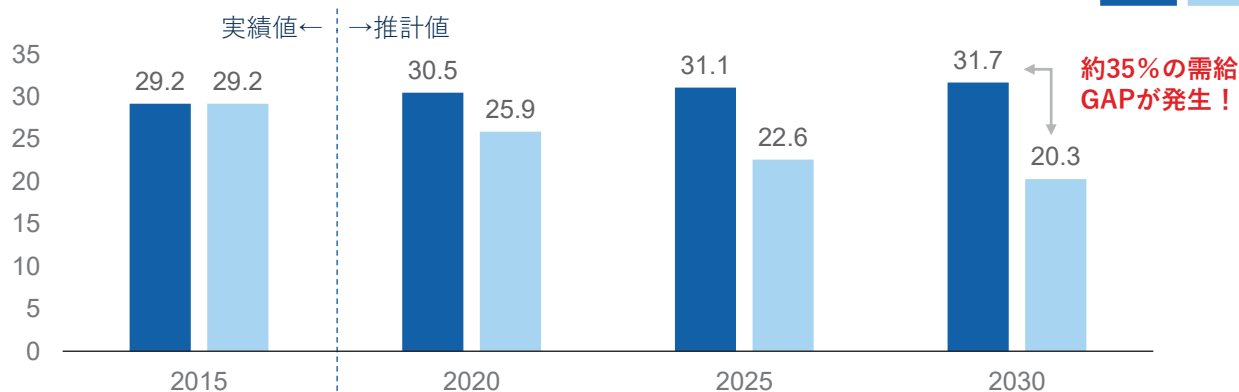
## 物流需給のGAPの発生



業界の構造的改題及び労働時間の上限規制等により物流供給力が大幅に制限され、2030年には約35%の物流需給GAPが予測される状況。

## 営業貨物自動車の需給バランスの推移（単位：億トン）

需要 供給



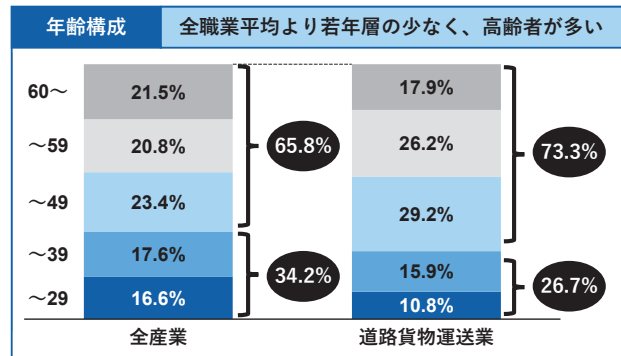
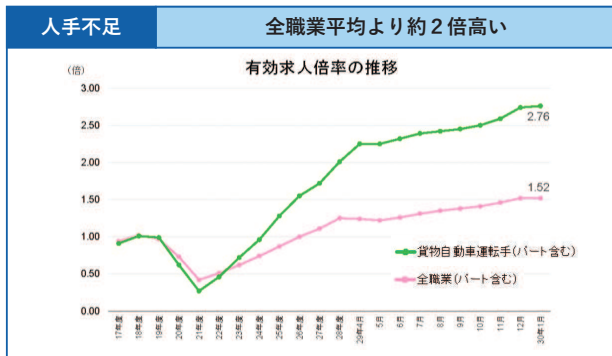
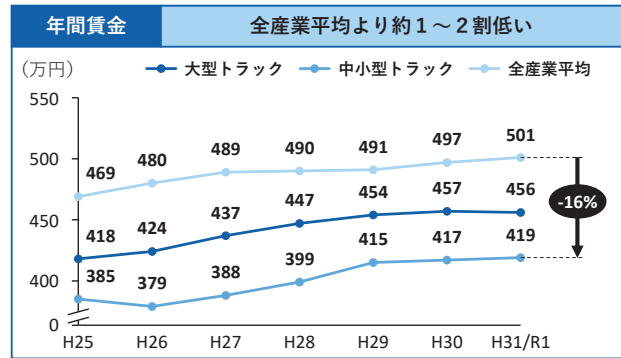
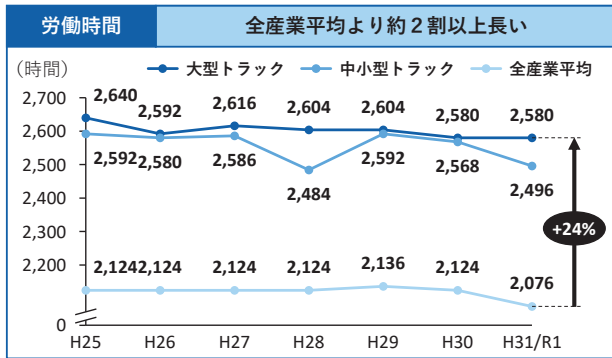
### 【需要側の要因】

- ✓ 小ロット化と小口多頻度化の進展により物流需要は増加
- ✓ EC化比率の伸びにより、高いサービスレベルの要求は今後も継続する見通し

### 【供給側の要因】

- ✓ 過当競争と労働力人口減少の結果、物流供給（事業者数・ドライバー数）は減少。また積載効率も悪化。
- ✓ 2024年からは働き方改革関連法案が適用され、時間外労働時間の超過に罰則規定が適用

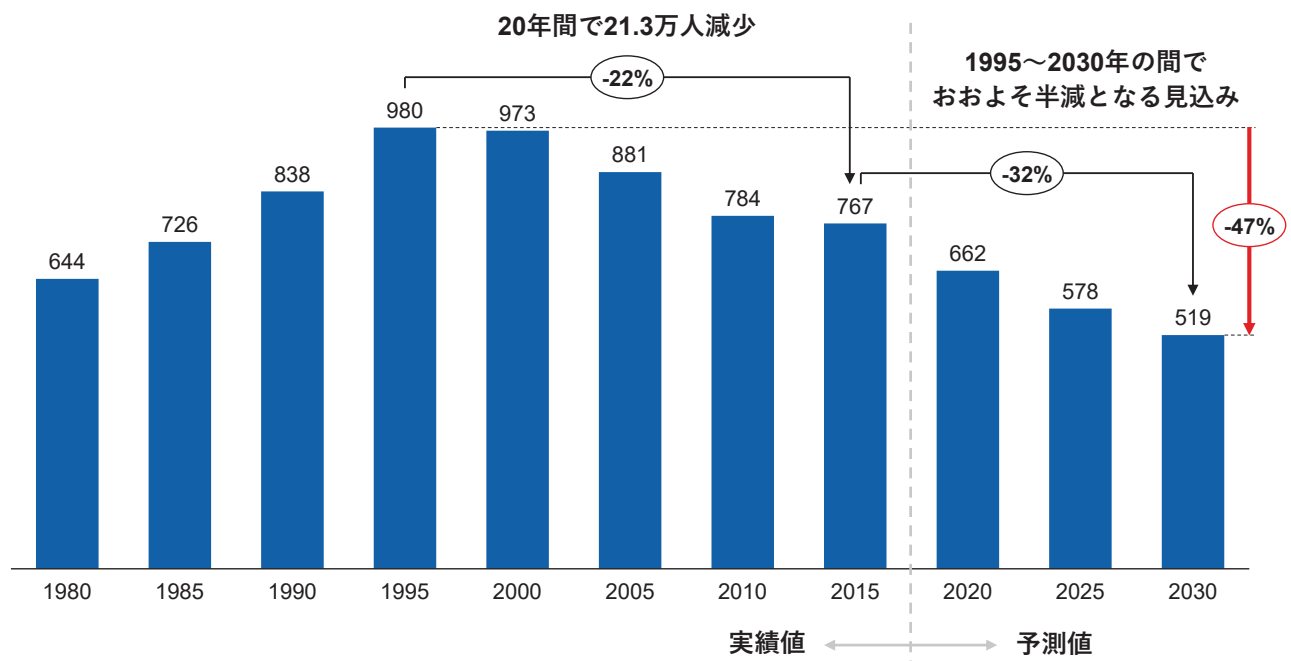
貨物自動車運送業は、全産業と比較して労働時間は2割長く、賃金は2割低い。結果、人出不足は慢性化し若年層の雇用比率も低い。



出所：厚生労働省、国土交通省

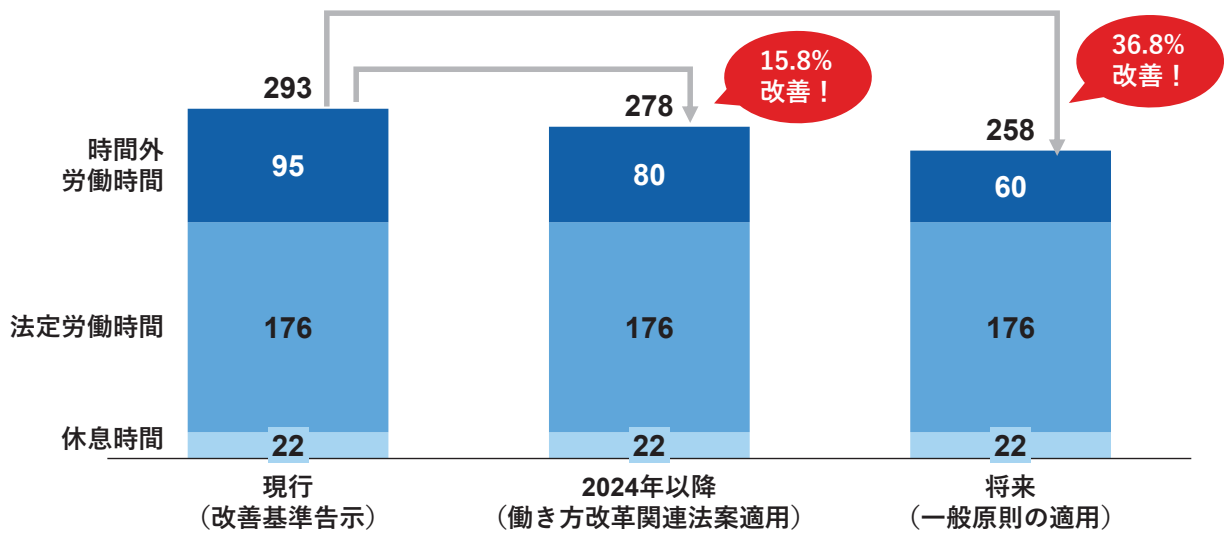
トラックドライバーの数は1995年以降減少しつづけており、2015年以降は減少のペースを上げ、2030年までの間には1995年の約半分にまで減少する見込みです。

トラックドライバーの現状：運転従事者数の推移



時間外労働の上限規制の適用によって、現行の改善基準告示よりも約16%、将来的には約37%もの労働時間の削減が要求されています。

時間外労働の上限規制の影響 (22日勤務、1日1時間の休憩の場合)

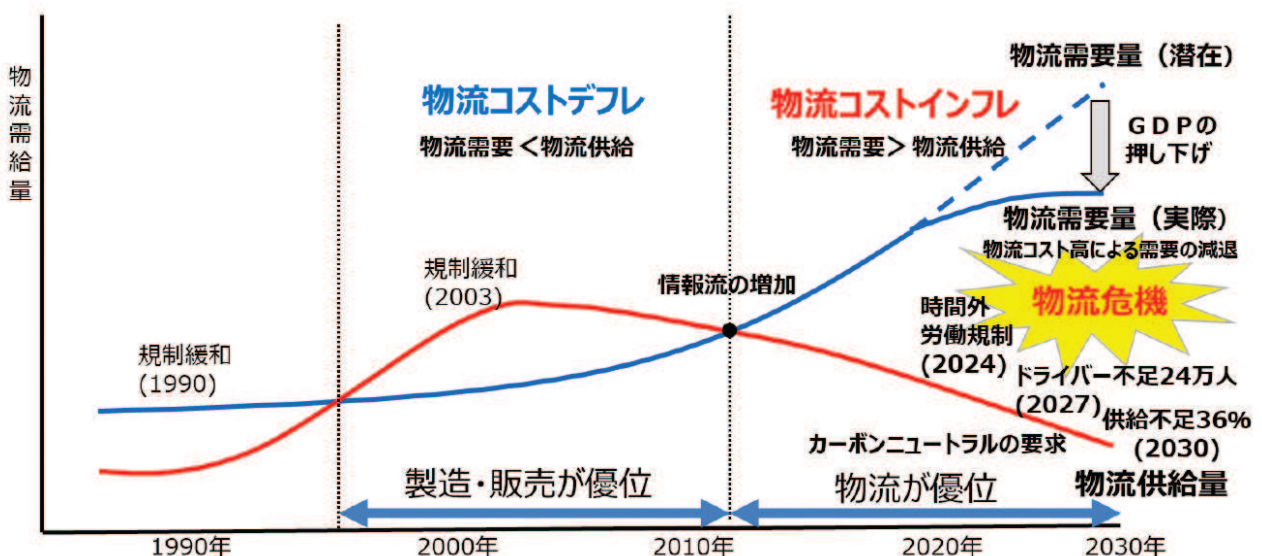


改善基準告示を遵守 (1日の残業時間が4時間程度) している事業者であっても、さらに16%、将来的には37%もの労働時間の削減が必要!

物流危機の発生

物流需給ギャップが継続した場合、「物流コストインフレ (≡物流危機)」が発生し、物流需要及びGDP全体を押し下げ、10兆円程度の経済損失が発生する可能性。

需給バランス推移の模式図





我が国においても、「物流革新に向けた政策パッケージ」として、(1) 商慣行の見直し (2) 物流の効率化 (3) 荷主・消費者の行動変容3点が規制的措施を含む施策として検討を開始。

「物流革新に向けた政策パッケージ」概要	
✓ 関係閣僚会議にて策定された2024年問題対策における物流環境整備を目的とした <b>荷主・物流事業者・一般消費者</b> が協力し (1) <b>商慣行の見直し</b> (2) <b>物流の効率化</b> (3) <b>荷主・消費者の行動変容</b> への各種施策	

①具体的な施策
(1) 商慣行の見直し (2) 物流の効率化 (3) 荷主・消費者の行動変容

②施策の効果 (2024年度分: 計14.3ポイント*)				③当面の進め方	
施策	施策なし	施策あり	効果	実施日	内容
荷待ち・荷役の削減	3時間	2時間×達成率3割	4.5P	2024年初  2023年末まで	通常国会での法制化も含めた規制的措施の具体化
積載効率の向上	38%	50%×達成率2割	6.3P		トラック輸送に係る契約内容の見直しに向けた「標準運送約款」「標準的な運賃」の改正等
モーダルシフト	3.5億トン	3.6億トン	0.5P		再配達率「半減」に向けた対策
再配達削減	12%	6%	3.0P		2024年度に向けた業界・分野別の自主行動計画の作成・公表
				速やかに実施	2030年度に向けた政府の中長期計画の策定・公表
					2024年における規制的措施の具体化を前提としたガイドラインの作成・公表等

\*1ポイントはトラックドライバー1万人の輸送力改善効果

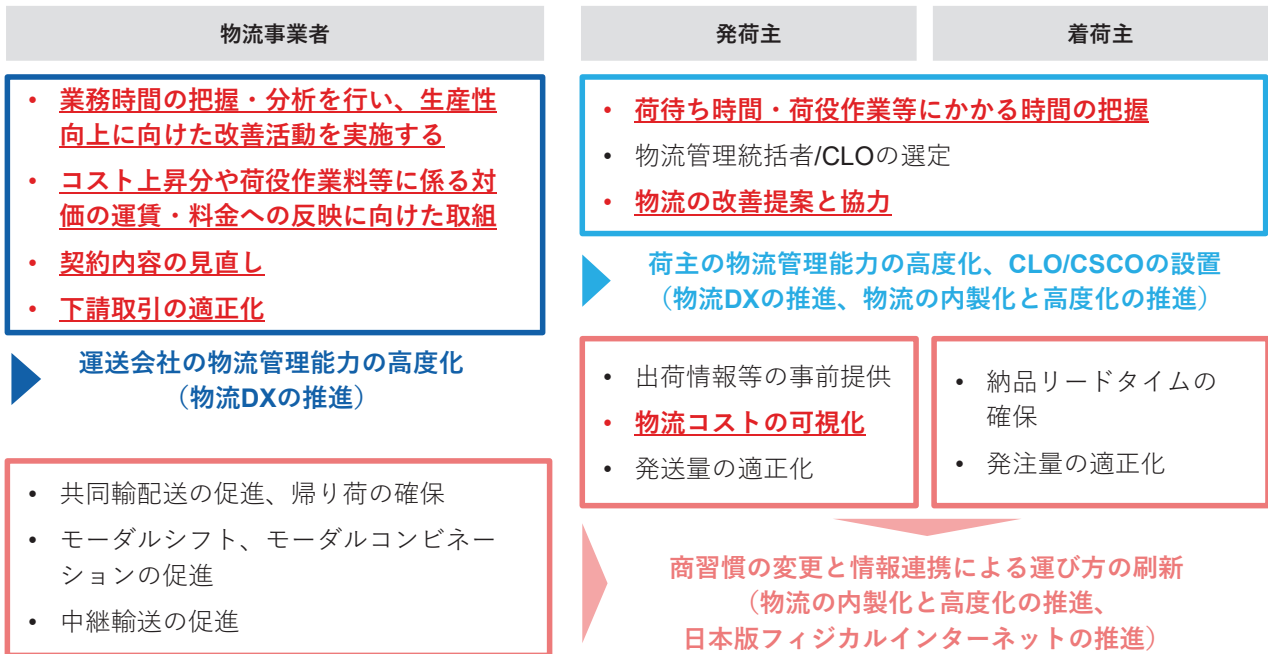
参考情報) 政策パッケージの詳細

(1) ~ (3) で示された施策の詳細は下記の通り。

施策の分類	施策の詳細 (次頁の内容と関連が深いものを赤字にて記載)
(1) 商慣行の見直し	① 荷主・物流事業者間における物流負荷の軽減 (荷待ち、荷役時間の削減等) に向けた規制的措施等の導入 ② 納品期限 (3分の1ルール、短いリードタイム)、物流コスト込み取引価格等の見直し ③ 物流産業における多重下請構造の是正に向けた規制的措施等の導入 ④ 荷主・元請の監視の強化、結果の公表、継続的なフォロー及びそのための体制強化 (トラックGメン (仮称)) ⑤ 物流の担い手の賃金水準向上等に向けた適正運賃収受・価格転嫁円滑化等の取組み ⑥ トラックの「標準的な運賃」制度の拡充・徹底
(2) 物流の効率化	① 即効性のある設備投資の促進 (バス予約システム、フォークリフト導入、自動化・機械化等) ② 「物流GX」の推進 (鉄道・内航海運の輸送力増強等によるモーダルシフト、車両・船舶・物流施設・港湾等の脱炭素化等) ③ 「物流DX」の推進 ④ 「物流標準化」の推進 (パレットやコンテナの規格統一化等) ⑤ 道路・港湾等の物流拠点に係る機能強化・土地利用 最適化や物流ネットワークの形成支援 ⑥ 高速道路のトラック速度規制 (80km/h) の引上げ ⑦ 労働生産性向上に向けた利用しやすい高速道路料金の実現 ⑧ 特殊車両通行制度に関する見直し・利便性向上 ⑨ ダブル連結トラックの導入促進 ⑩ 貨物集配中の車両に係る駐車規制の見直し ⑪ 地域物流等における共同輸配送の促進 ⑫ 軽トラック事業の適正運営や輸送の安全確保に向けた 荷主・元請事業者等を通じた取組強化 ⑬ 女性や若者等の多様な人材の活用・育成
(3) 荷主・消費者の行動変容	① 荷主の経営者層の意識改革・行動変容を促す 規制的措施等の導入 ② 荷主・物流事業者の物流改善を評価・公表 する仕組みの創設 ③ 消費者の意識改革・行動変容を促す取組み ④ 再配達削減に向けた取組み (再配達率「半減」に向けた対策含む) ⑤ 物流に係る広報の推進

政策パッケージを具体化したガイドラインにおいても、物流事業者・荷主双方に対して運賃交渉をするための準備や実施事項が提起されている。

### 政策パッケージの適用による各主体の対応

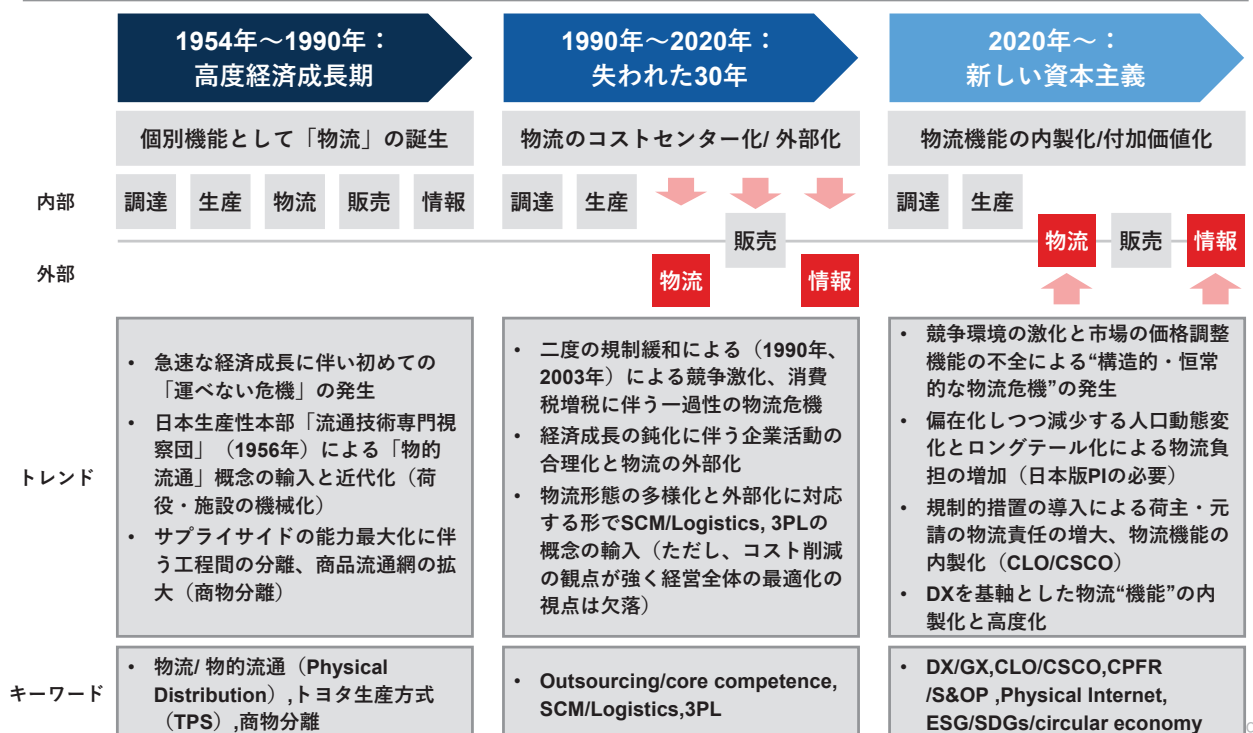


出典：「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン」を参考に弊社作成

### ご参考) 日本の物流の過去と未来 (日本ロジスティクスシステム協会大阪講演会より)

失われた30年 (物流のコストセンター化/外部化) を経た日本の物流は、DX及びCLOを基軸に据えた物流機能の内製化/付加価値化という新しい局面に突入する。

#### 日本における物流環境の変遷



#	テーマ	時間
1	はじめに	5分
2	2024年問題と政策パッケージ	10分
3	運賃交渉の実践事例ご紹介	15分
4	原価管理のポイント	10分
おまけ	人事制度改革の基礎知識	-

20

## 支援したお客様の概要

弊社ご支援の成果内容をお見せいたします。

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>店舗什器の輸送、ならびに店舗什器の設置・据え付け</li> <li>配送先は全国の百貨店、量販店</li> </ul>						
従業員数	40名	車両台数	30台	所在地	関東	営業所数	3拠点
輸送形態 荷物	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の荷主は倉庫に常駐し、配車・出庫・帰庫を同倉庫より実施</li> <li>配送先は百貨店、スーパー等の店舗で、1運行で複数店舗を巡回</li> </ul>						
業務の 実施方法 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>案件受注：紙</li> <li>配車表：紙</li> <li>運行実績登録：デジタコ、Excel</li> <li>請求書：Excel</li> <li>車両原価管理：Excel</li> <li>労務管理：Excel</li> </ul>						
運賃形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な運賃形態は月額固定費用 + 時間・休日割増</li> </ul>						

21

業務データの不足により原価計算が行いにくい状況を改善し、運賃交渉レポートの作成を支援いたしました。

## お客様のご状況・課題

- 運賃が数十年変わらない中、業務量/走行距離が運賃設定時の2倍まで増加し赤字、かつ交渉自体がこれまで不成立。
- システムはデジタコ以外利用していない  
→**運賃交渉の材料となるデータがほぼ存在せず**、根拠を持った運賃交渉の提案が難しい
- 財務会計を税理士に一任  
→費用情報が会計処理時に合算されてしまい、**運賃交渉の材料（車両ごと・コースごとの原価・採算）が不明瞭**に。

## 運賃交渉支援の概要

- 運賃の割増率のシミュレーションを作成し、事業安定に必要な金額を算定。提示額通りでの交渉を成功。
- 運賃交渉用の損益計算書、交渉レポートを作成  
→提示額の妥当性を示し、切り替えを予防できるよう自社の強み提示を支援
- 原価計算に必要なデータを定義し、配車表を元にデータの収集・活用を支援  
→①運賃交渉に必須な原価計算の材料を定義・収集。かつ、②車両ごと・コースごとの原価按分ロジックも設定

# 運賃交渉レポート

投影のみ  
(録画・撮影不可)

#	テーマ	時間
1	はじめに	5分
2	2024年問題と政策パッケージ	10分
3	運賃交渉の実践事例ご紹介	15分
4	原価管理のポイント	10分
おまけ	人事制度改革の基礎知識	-

## 原価計算のよくあるお悩み

原価計算は収益性改善のために非常に重要な一方、よくお悩みをよくお伺いする業務でもあります。

### データ準備

- 原価が費目ごとに異なるExcelファイルで管理されていて、**元となるデータの集約作業が大変**
- 各運行の所要時間や距離等の情報が散在しているため、**案件別・コース別の原価算出が難しい**

### 指標の算出/分析

- 費目ごとの計算や観点ごとの配賦方法が複雑で、**自社の実態に合う適切な算出/分析方法がわからない**

原価計算に必要なデータを下記に定義。配車表や請求書、原価管理表にデジタコ等、原価計算に必要なデータが各所に点在し、結果として必要なデータの収集が困難に。

	配車表 (Excel)	請求書	原価管理表	デジタコ	各情報から算出可能な指標
荷主	○	○	×	×	荷主ごとの売上・採算
部門・距離区分	○	×	×	×	部門・区分別の売上・採算
案件ごとの時間	×	×	×	△	案件の時間単価
コース	○	×	×	×	コース別の売上・採算
乗務員	○	×	×	○	乗務員ごとの売上・採算
車両	○	○	×	○	車両ごとの売上・採算
勤怠情報	×	×	×	○	乗務時間の予実・人件費コスト
車両原価	×	×	△ (車両ごとの原価が不明)	×	車両費用の上昇下降傾向
距離情報	×	×	×	○	距離当たりの売上・実車率/空車率

26

## 運送業の現場

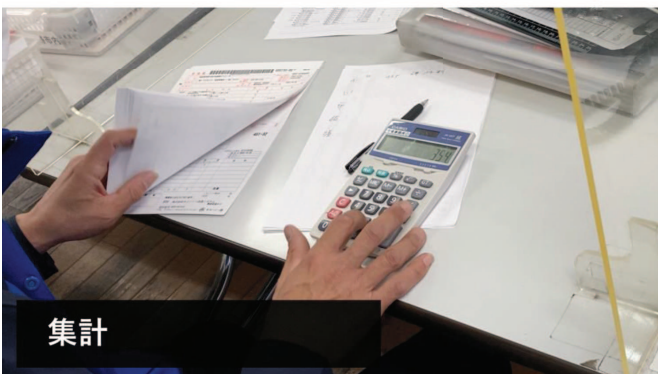
紙やエクセルによる管理が主流であり、膨大な事務コストが発生。電話・Faxで来た受注を紙に記載し、その内容を別の紙に転記し集計。結果としてデータが崩れ集計も困難に。



多様な紙



転記



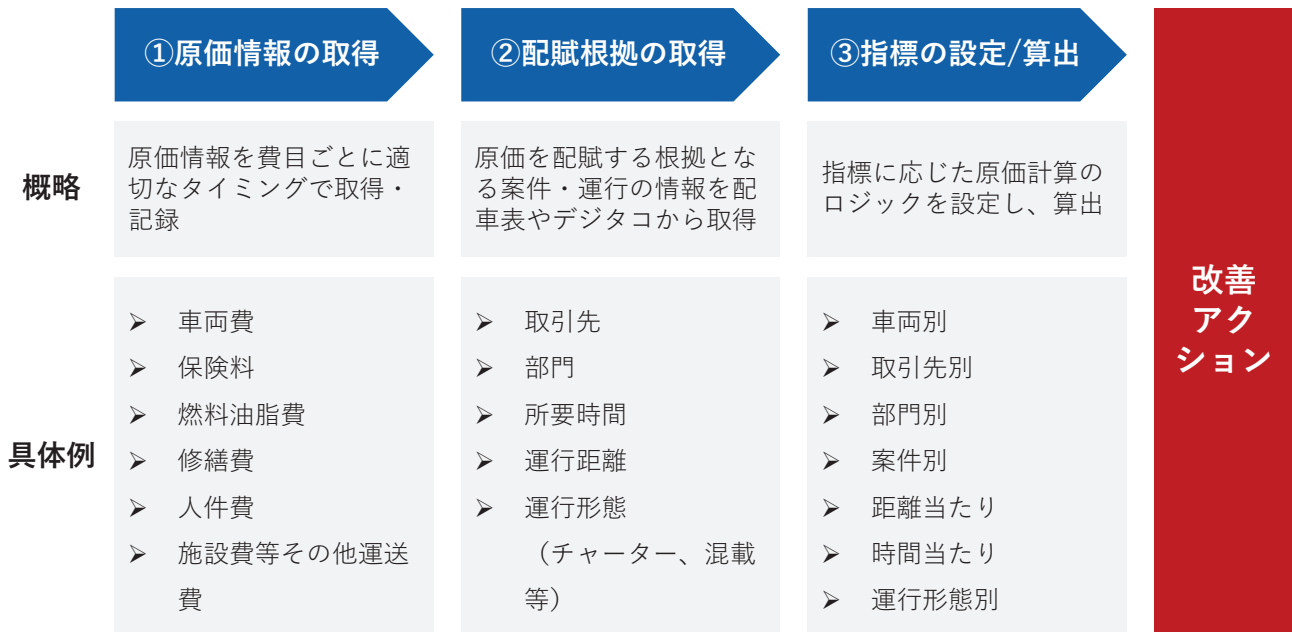
集計



遅くて粗い分析

27

原価計算は①原価情報の取得、②配賦根拠の取得、③指標の設定/算出、の3つの要素が重要です。原価計算の最終的なゴールは改善アクションに繋げる点にあります。



## 原価計算をスムーズに行うには 1/2

収益改善のアクション・指標の明確化、切り口と原価費目の整理が原価計算の第一歩。情報取得には現場の手間もかかるため、自社に必要なものに絞り持続的な管理を目指しましょう。

改善アクション	指標	配賦根拠	原価情報
取引先への運賃交渉	案件別原価・利益 取引先別原価・利益	案件別の距離・所要時間	固定費/変動費の 主要費目全て
取引先への条件変更の交渉	案件別原価/利益 荷役・付帯作業時間 等	案件別の距離・所要時間、 所要時間の内訳	
不採算コースからの撤退	コース別原価/利益	コース別距離・所要時間	
社内のコスト意識向上	変動費の構成比率	車両、ドライバー	燃料油脂費、高速代等
車両の廃車・売却・追加	車両別利益、修繕費推移	車両	車両費、修繕費

算出したい指標から逆算した日々の業務設計で、配車情報と原価を紐づけた管理が可能に。デジタル技術の活用は、指標確認のリアルタイム性向上や集計工数削減に繋がります。

### 業務設計のステップ

1	改善アクションとその判断に必要な指標を明確化
2	指標の算出に必要な原価情報/配賦根拠の洗い出し
3	各情報を取得できる業務を特定 ※多くの場合、配賦根拠は案件・配車情報から取得可能
4	必要な情報を業務にて取得できるようシステム等を設計
5	担当者の業務を#4の内容へ移行し、定着
6	原価計算を行い、必要に応じ業務設計を見直し

### デジタル活用による + α

- ✓ ベンダーによる知見の提供
- ✓ 指標が見やすく、リアルタイムに確認可能
- ✓ 業務設計の精度向上
- ✓ 業務を行うだけで分析用データを取得、入力の手間を削減
- ✓ ベンダーによる業務定着の支援

## ロジックスにより実現できること

ロジックスは運送業に特化し、業務の効率化とデータによる経営改革を同時に実現できる唯一無二のクラウド型システムです。

**運送管理業務の標準化・効率化**

オールインワン機能で一気に通貫でデジタル化の実施が可能

徹底的な導入サポート  
豊富で使いやすい機能

属人化の解消    無駄な業務工数の削減

**経営管理の高度化**

配車業務からの充実したデータの取得

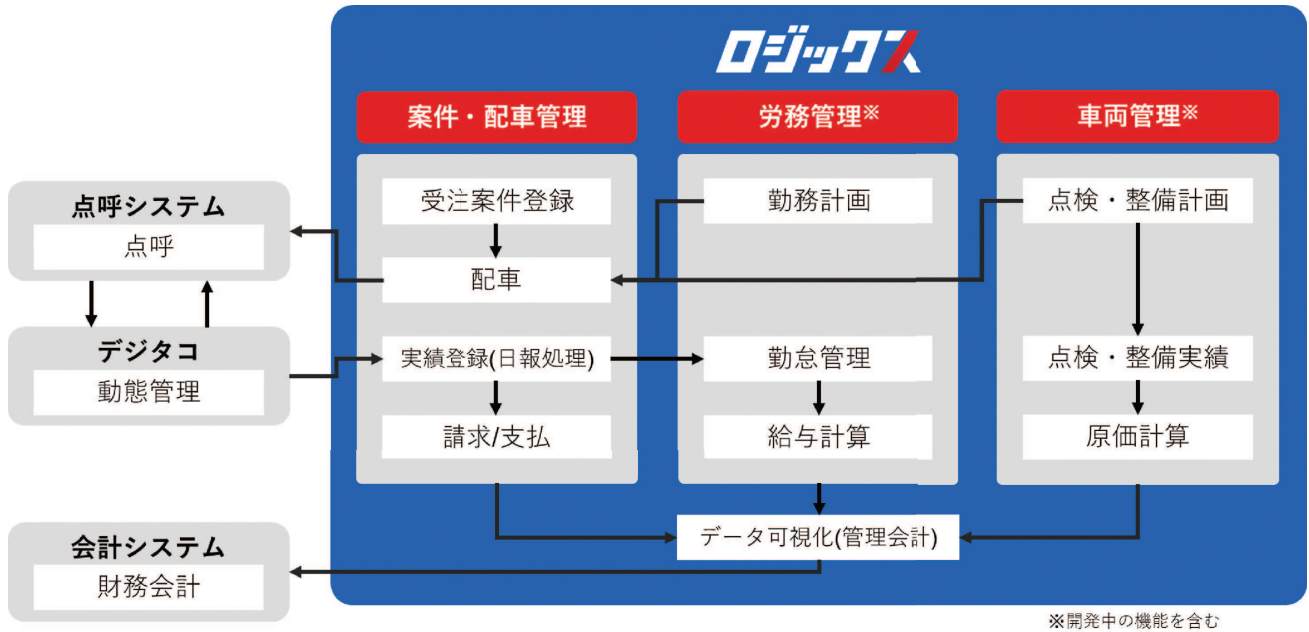
豊富なコンサル実績と高い業務理解で早く深い経営管理を実現

膨大なデータからの読み取りと分析を行うことができる

日次ダッシュボードで早い（リアルタイム）業績の可視化  
経営分析レポートの深い分析で経営アクションを発見



ロジックスは、配車から請求、労務、車両管理まで多数の機能をまとめてご提供しています。また、既存の点呼システムやデジタコ、会計システムと連携することも可能です。



## データ活用の状況とロジックスによる解決策

ロジックスを利用することで、業務に関するあらゆるデータがリアルタイムに取得でき、経営管理・運賃交渉に用いる各指標を確認することが可能となります。

	配車表 (紙)	請求 システム	車両原価 管理表	デジタコ	ロジックス	各情報を基に 算出可能な指標
荷主	○	○	×	×	○	荷主ごとの売上・採算
部門・距離区分	○	×	×	×	○	部門・区分別の売上・採算
案件ごとの時間	×	○	×	×	○	案件の時間単価
コース	×	×	×	×	○	コース別の売上・採算
乗務員	○	○	×	○	○	乗務員ごとの売上・採算
車両	○	○	×	○	○	車両ごとの売上・採算
勤怠情報	×	×	×	○	○	乗務時間の予実・人件費コスト
車両原価	×	×	○	×	○	車両費用の上昇下降傾向
距離情報	×	×	×	○	△	距離当たりの売上・実車率/空車率

- ① **2024年問題は、荷主の物流管理責任（意識）を高め、物流改革を推進する一大チャンス！**
- ② **運賃交渉の成功に向けてはデータ（エビデンス）の用意が必須！ポイントは共通理解の醸成！**
- ③ **原価管理のポイントは業務と原価データをつなげる  
こと。システムを活用することで自然と原価を取得し、  
運賃交渉に活用！**

34

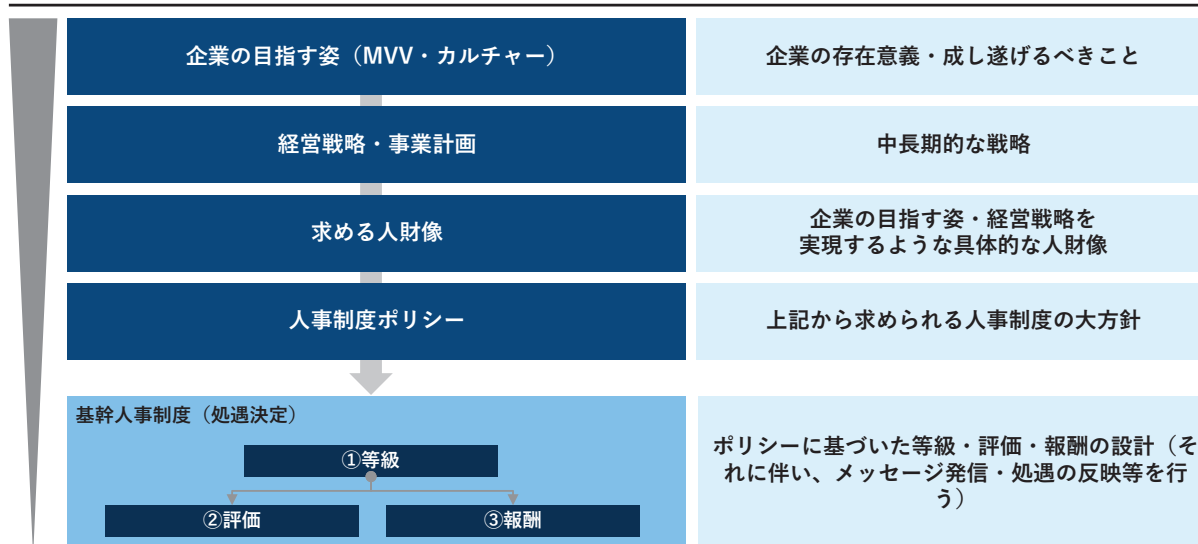
(おまけ)  
人事制度改革の基礎知識



DXが「経営改革」として全社的な取り組みになる以上、本質的には「人事制度ポリシー」から遡って制度作りを実施していく必要がある。

人事制度は等級、評価、報酬を柱とする「基幹人事制度」から構成されますが、その人事制度はより上位の「人事制度ポリシー」から落とし込まれるものです。さらに、人事制度ポリシーはより上位の「経営戦略」や「企業の目指す姿」を反映したものでなくてはなりません。

人事制度の全体像



人事制度の構築プロセス

人事制度の構築は大きく分けて「方針整備」「制度構築」「運用設計」の3つのプロセスに区別されます。期間は最短でも3~4ヶ月、一般的には6ヶ月~1年程度の時間を要する。

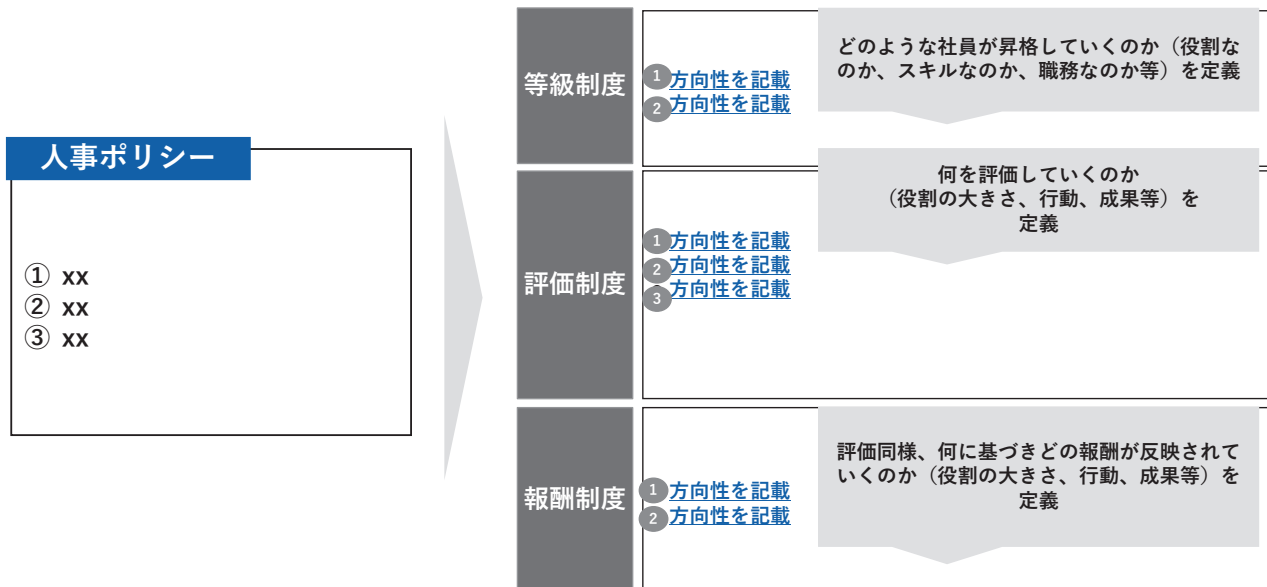
プロセス	ステップ	主な検討事項
方針整備	① 企業の目指す姿・改定の目的整理	現状把握、課題特定、MVV・経営計画の整理 等
	② 人事制度ポリシーを作成	①を踏まえた人事制度ポリシー=人事制度の方向性 等
制度構築	③ 等級制度作成	社員への期待値の言語化 (等級制度の選択)、階層設計、定義言語化等
	④ 評価制度作成	評価軸の言語化、評価ロジック設定、詳細ルールの策定 等
	⑤ 報酬制度作成	報酬へのメッセージと報酬構成設計、報酬水準設定、評価ロジックとの接続 等
運用設計	⑥ 評価シミュレーション実施	仮評価などで実際に評価運用をし妥当性を確認、個別調整や経過措置の検討 等
	⑦ 人事制度説明・人事制度運用開始	社員向け説明資料作成、説明会の実施、効果測定 等

人事制度ポリシーと紐づく形で基幹人事制度（等級・評価・報酬）の各制度の大枠を決めて行う。

## 人事制度ポリシーと各制度の基本方針

貴社における人事ポリシー

新人事制度の基本方針



38

## 人事制度ポリシーのイメージ

人事制度ポリシーはより上位の概念である「会社のミッション・事業戦略」を踏まえ、各制度において重要視するポイントを言語化する。

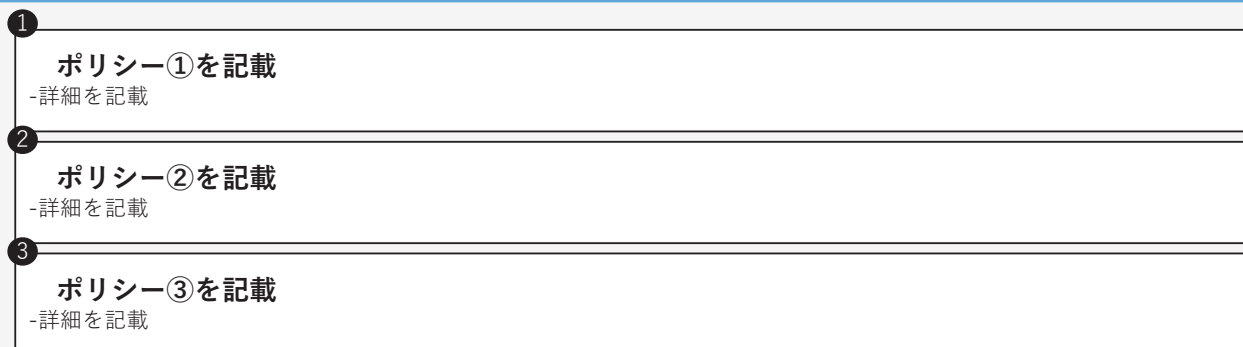
## 人事制度ポリシー

会社のミッション・事業戦略

Mission : xx  
Vision : xx  
Value : xx

- 人事制度ポリシー -

ポリシー内容を記載



39

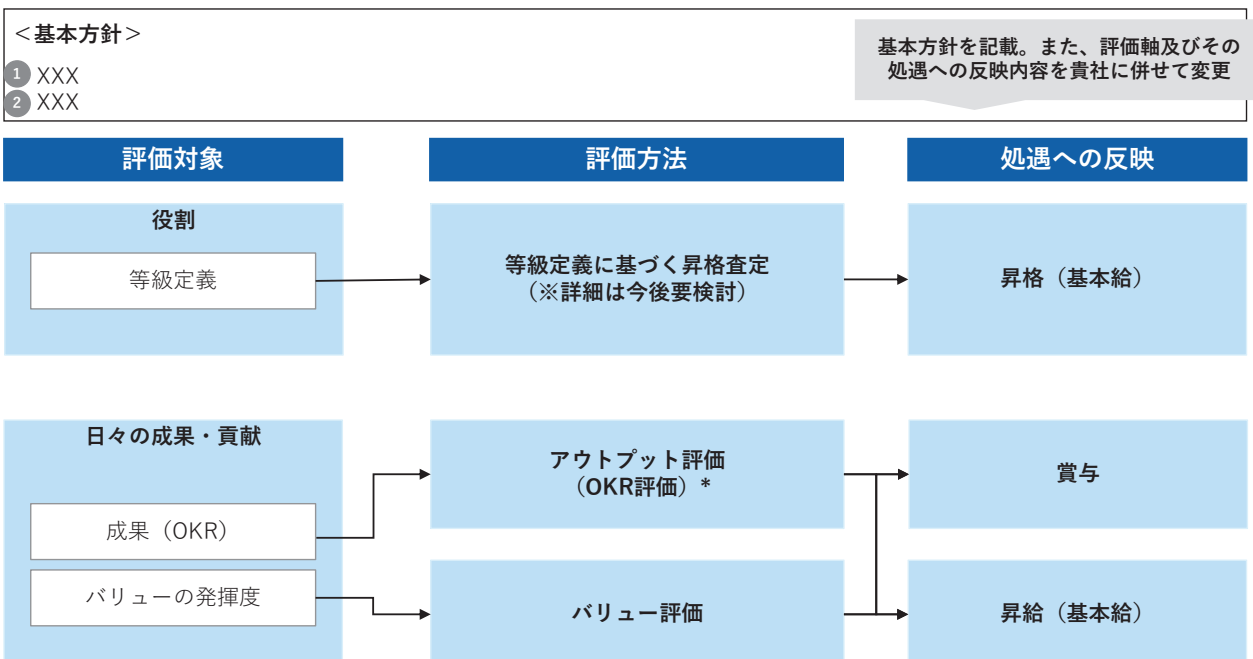
等級制度は評価・報酬の基盤となる。DX人材は要件も職種ごとに多岐に渡るため、各要件ごとの等級テーブルを整備する必要がある。

### 等級制度の方針とイメージ

<基本方針> ① XXX ② XXX		基本方針を記載。また、図は等級の段階とコースに併せて変更		
		等級イメージ	管理職	事務職
呼称 (イメージ)	等級	定義	定義	定義
部長	等級VI			
次長	等級V			
課長	等級IV			
係長	等級III			
主任	等級II			
一般	等級I			

評価制度は等級ごとに適切な評価方法を設計し、これを処遇（等級・報酬）に反映させていく。自社の目指すビジネスモデルに最適な評価方法を設定することが重要である。

### 評価対象・方法・処遇への反映



DX人材の報酬体系は通常の報酬体系と異なることも多く、固定・変動費率、基本・変動比率や等級間での給与GAP等を考慮の上決定する。

### 報酬体系及び給与テーブルのイメージ

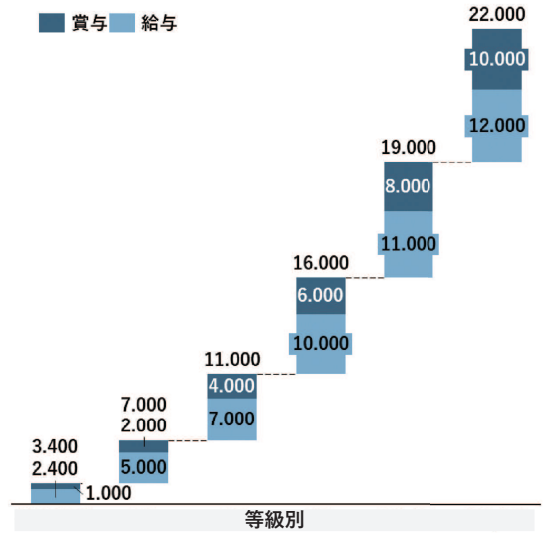
<基本方針>

① XXX

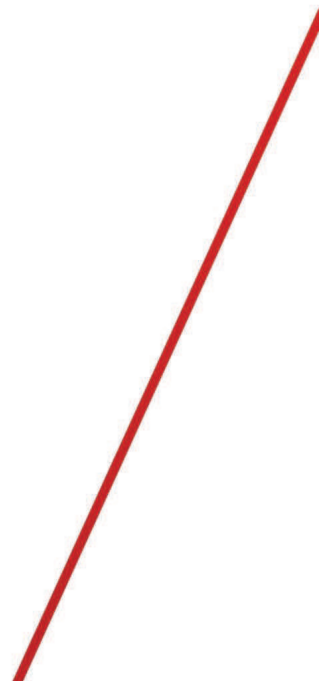
② XXX

基本方針を記載。また、給与ポリシーと設計についても併せて記載

報酬体系			
固定	基本給		XXX
	所定内 諸手当	役職手当	XXX
		職務手当	XXX
		通勤手当	XXX
所定外 諸手当	割増賃金	XXX	
変動	賞与		XXX
	その他		XXX



トライアルのご案内



弊社が提供する「ロジックス」は受注から配車、帳票作成、点検・整備、請求、労務管理、データ分析に至るまで運送業の業務を網羅的に効率化

運送業特化のオールインワンSaaS

# ロジックス



## ロジックスの概要

ロジックスを活用すれば業務を効率化しながら自然とデータを蓄積し、蓄積されたデータを経営管理の高度化にも活用が可能



ロジックスを導入することで、バラバラだった業務が1つのシステムで完結し、効率的で効果的な売上・原価の集計と分析を実現できます。

## お客様のご状況・課題

- 業務がアナログすぎる結果、**手書きや多重入力が発生**
- 業務によって複数のシステムやツールを使い分けている結果、**特定の個人に業務が属人化**
- データを集めるためのシステムがないため、**データの入力や集計にコストが発生**
- データの分析のノウハウが不足しており、**データがあっても活用しきれない**

## 運賃交渉支援の概要

- 多くの業務が1つのシステムで完結することで、**業務が繋がり多重入力が不要に**
- 標準的なシステムに業務の仕方を合わせることで、**誰でもできる形に業務を標準化**
- 業務とデータが1つのシステムで繋がっていることで、**データの入力・集計作業が不要に**
- 貴社への深い理解と弊社のノウハウを提供することで、**レベルの高いデータ経営を実現**

# 導入効果・導入実績

ロジックスでは帳票数及び転記作業の回数を大幅に削減し、結果として事務担当者の業務時間を50%、請求書作成時間を5分に削減

### 帳票数

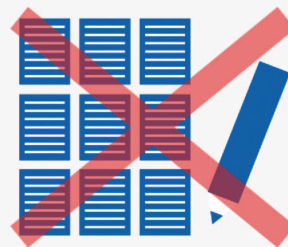


4種類



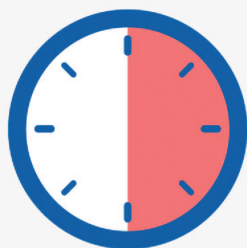
ロジックスに  
**1本化!**

### 転記作業



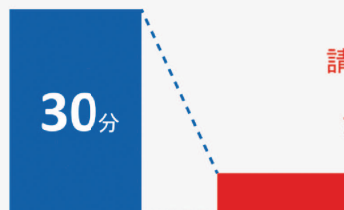
9回の転記回数が  
**0回に!**

### 業務時間



1日あたりの  
事務担当者の業務時間  
**50%カット!**

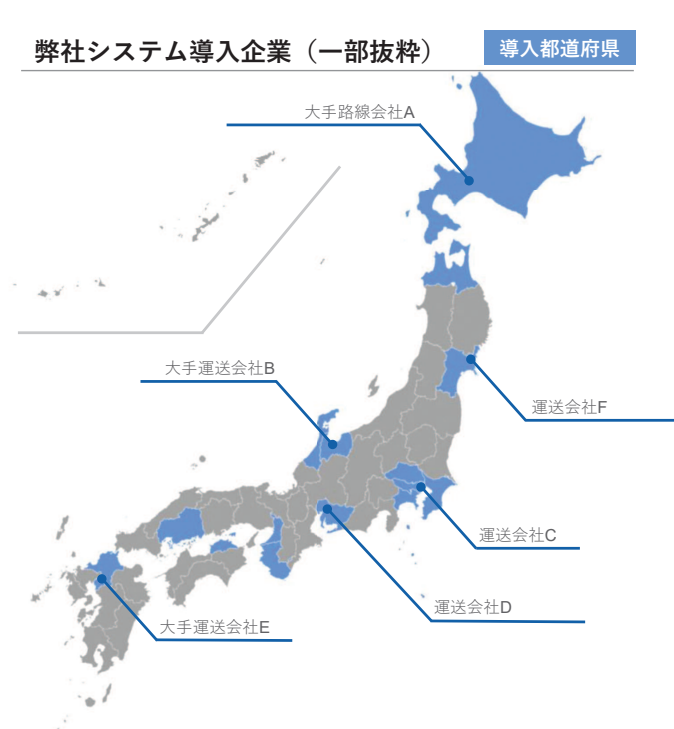
### 請求書作成時間



請求書作成時間が  
たった**5分**に!



## 大手～地域の運送会社様まで、全国各地の事業者への導入



### 全国各地の優良事業者との接点

- 全国各地への導入実績
- トラック協会青年部会長や地域の優良企業賞受賞企業との関係

### システム提供を通じた深い関係性

- 弊社経営管理システムの提供を通じた現場から経営までの関係構築
- 月次での分析レポート提供による継続的な関係性

### 圧倒的な業界・業務への知見

- システム導入を通じた現場業務・経営実態への深い知見
- 全国の運賃相場や業界事情にも知見・ノウハウを保有

## 【無料】トライアルのご案内

無料のトライアルを通じ、貴社に合わせた最適なご利用方法をご提案させていただきます。トライアルによりシステム導入に伴うリスクを最小限に抑えることができます。

トライアル	<b>①ゴールの確認</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 貴社におけるDX、システム導入のゴールを確認</li> <li>• 導入プロジェクトの体制と、導入の進め方を確認</li> </ul>
	<b>②業務ヒアリング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 営業所に訪問し、現場の担当者様に現行業務をヒアリング</li> <li>• 業務フローや、その中での課題（多重入力、営業所間の連携）等を可視化</li> <li>• ロジックスのご利用方法のすり合わせ</li> </ul>
	<b>③操作検証</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現場にて、実業務と同様のデータで設定・操作をお試し</li> <li>• 「本当に業務で使えるか」「システム上、業務フローで変更したい点」を確認</li> </ul>
	<b>④成果報告</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現行業務と課題、及びロジックスによる解決方針を報告</li> <li>• 本導入をご提案</li> </ul>
本導入	<b>⑤利用定着</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ロジックスを使った業務への切り替え</li> <li>• トライアルにて検証済みのため、円滑な切り替えが可能</li> </ul>
	<b>⑥活用の発展</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 蓄積されたデータを活用し、収益の改善方法を発見・実行</li> <li>• 絶え間ない機能アップデートを通じて、更なる業務効果・経営インパクトを創出</li> </ul>

